

「第3次弘前圏域定住自立圏共生ビジョン（素案）」パブリックコメントの結果について
募集期間：令和4年1月27日（木）～令和4年2月18日（金）
応募件数：41件

2名の方から延べ41件の意見をいただきました。その反映状況は次のとおりです。

文章修正等	記述済み	検討	反映困難	その他	合計
18件	0件	0件	10件	13件	41件

【文章修正等】・・・本文の修正、記述の追加等意見を反映させるもの。

【記述済み】・・・既に記述済みのもの。

【検討】・・・計画の実施段階で検討または対応すべきもの。

【反映困難】・・・反映が困難なもの。

【その他】・・・質問や感想。施策の体系外への意見。

提出された意見等の詳細及び回答

番号	応募方法	募集要件	意見等	回答
1	E メール	弘前圏域内に住所を有する人 等	26 ページからの移住・定住関係 連携施策名 黒字になる出産育児 取り巻く現状・課題 出産育児一時金は現在 42 万円支給されているが、赤字になる全然足りない 本当に赤ちゃんをたくさん産んで欲しいという気持ちがあるのならば出産育児一時金は黒字になるくらい支給しなければならないのではないか 施策の内容 出産育児一時金 42 万円にプラスして最低でも 8 万円は補助してもらいたい。個人的には 100 万円でもいいと思う。 具体的な事業の内容 弘前圏内で出産した場合は 42 万円に加えて補助をする。10 年以内に弘前圏内へ転出した場合は差額を返却していただく。	【その他】 弘前圏域では、晩婚化・未婚化が進み、平均初婚年齢及び平均出生時年齢が年々上昇していることから、独身者の「出会いの場」を創出するとともに、婚姻者数の増加及び結婚に対する意識の高揚を図るため、「ひろさき広域出愛サポートセンター」を設置し、スケールメリットを生かした効果的な婚活支援を展開しております。 結婚に対する支援や出産に対する支援に関しては、各市町村がそれぞれ、計画などに基づいて事業を実施しているところであり、いただいたご意見は圏域市町村で共有し、参考とさせていただきます。

番号	応募方法	募集要件	意見等	回答
2	E メール	弘前圏域内に住所を有する人 等	26 ページからの移住・定住関係 連携施策名 本当に克雪したい 取り巻く現状・課題 若者が県外に流出してしまう理由の一つとして雪の問題があると思います。 これは県外からの移住も妨げてしまっていると考えられます。 冬季間の雪問題が完全に解決して初めて青森県は雪が降らない 都道府県と同じ土俵に立てるのです。 つまり、移住・定住の観点から行くと青森県はマイナスからのスタートとなります。 施策の内容 雪により不利益を被っている部分を限りなくなくすことで、初めて雪が降らない地域からの移住を考える人が増えてくると思います。雪のせいで損しているところを補助してくれればだいぶ違うと思います。 雪が降らない地域の人は2WDの車を購入し、夏タイヤだけしか買わず、エアコン1台で年中快適で、雪かきなんてしたこともない。同じ土俵に立つためには・・・ 具体的な事業の内容 車を購入する際に2WDと4WDの差額を補助する 冬タイヤを購入する際に補助する 全域に融雪構や流雪構を配備し、雪片づけにかかる手間を軽減する 雪片づけにかかる費用を補助する（スコップ、スノーダンプ等） 暖房費用を補助する（ストーブの購入、灯油代） 雪に負けない家を建てる時に補助する	【その他】 ご意見のとおり、弘前圏域市町村への移住を検討されている方からは、雪国での生活に対する不安の声も多く聞かれています。 このような不安を少しでも解消するため、本圏域では令和2年度に「冬生活の知恵袋～雪国移住に踏み出そう～」と題し、雪国生活に関心や不安がある方や、雪国の暮らし方について話を聞いてみたい方などを対象に移住セミナーを実施しております。 移住された方や市民に対する雪に関する環境整備、個人への補助などについては、各市町村がそれぞれ、計画などに基づいて事業を実施しているところであり、参考として弘前市においては、一部の地域に流雪溝の整備などを行っているところです。 いただいたご意見は圏域市町村で共有し、参考とさせていただきます。

番号	応募方法	募集要件	意見等	回答
3	E メール	弘前圏域内に住所を有する人 等	26 ページからの移住・定住関係 連携施策名 企業のホワイト化促進事業 取り巻く現状・課題 非正規雇用者の増加、人件費の削減、ボーナスカット、長時間労働、サービス残業、有給休暇の使用率低迷、将来への不安などを起因として、消費者が消費できない環境が構築されています。 経済が回らない理由としては、「お金を使いたくても使うお金がない。」「お金を使いたくてもいとまがない。」この2つに分類されると私は思います。 青森に仕事がないため、県外へ転出する若者が後を絶たない。しかし、有効求人倍率は向上している。つまり、青森には「良い」仕事がないから、魅力的な仕事を探しに県外へ若者たちが流出している現状があると考えています。 施策の内容 県内に給与が良い、休みが多い、安定している、いわゆるホワイト企業を増やすことにより、労働力の県外への流出を抑え、定住を促進し、経済を回すことが可能となります。将来への不安が払拭されれば婚姻率も出生率も増加し、すべての事象が好転すること請け合いである。 具体的な事業の内容 非正規雇用率や平均残業時間、有給休暇の消化率、年間休日数、3年以内の離職率、中途採用の状況、無差別なアンケートなど、様々な指標から「ホワイト企業指数」を割り出し、ホワイト企業として認定することにより、その企業のイメージアップにも繋がり、業績もアップできればいいと思う。予算の許す範囲でホワイト企業助成金なども創設していただきたい。	【その他】 本圏域は、弘前大学をはじめとする高等教育機関が集積し、青森県のみならず北奥羽の学術拠点となっており、多くの若者が集まる都市であります。大学卒業のタイミングで県外へ転出するケースが多く、その要因としては、若者が希望する地元就職先が少ないことなども一因になっているものと考えております。 そのことから、「ホワイト企業」のような優良な企業が地元を増えていくことは、地元で定住してもらうため、非常に有効であると考えておりますが、圏域として企業に対する様々な指標を設定し、認定することについては、難しいものと考えております。 なお、参考として国においては、新卒者の就職率のほか所定外労働時間や有給休暇取得率などを基準とした優良企業を認定する制度（ユースエール認定企業）を設けているほか、弘前市においては、若者に地元企業の魅力を知ってもらうための取組や、企業が優秀な若者を雇用する意識を向上させるための取組なども行っております。 今後も、若者の定住に向け、地元就職につながる様々な取組を検討してまいります。

番号	応募方法	募集要件	意見等	回答
4	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P.1の3第1段落1行目 意見：少子高齢化について、「少子・高齢化」とする箇所と、「少子高齢化」とする箇所が混在しているため、いずれかの表現に整理をお願いします。	【文章修正等】 「少子高齢化」に統一いたします。(修正箇所p1, 20)
5	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P.10の「④ その他の都市機能」「■ 交通ネットワーク」「路線バス」 意見：路線数は、弘前と他の都市間の路線数でしょうか、弘南バスの全路線数でしょうか。「公共交通」の駅数が弘前市内に限定されていることもあり、弘前市内及び、弘前市と他の都市間の路線数のみであれば、93路線よりも少なくなる可能性があるため、ご教示ください。	【文章修正等】 本項目では、弘前市（中心市）への都市機能の集積状況等を述べており、バス路線数についても、弘前市内の路線数及び弘前市と圏域市町村にまたがる路線数の合計値を記載しております。 なお、令和3年12月1日付けダイヤ改正を踏まえ、86路線に修正いたします。
6	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P.11の4（1）の図、P14の図 意見：棒グラフにおいて、ゼロ人から始めず途中の人数から始めるのは、印象操作を伴うため、ゼロ人から開始するグラフに修正をお願いします。 参考：情報処理学会研究報告「データの省略を伴う棒グラフの変形による不適切なデータ表現への気づきの誘発」	【反映困難】 作図上の都合であり、印象操作を意図したものではありません。 なお、各図には数値も記載していますので、圏域人口のこれまでの推移（p11の図）や将来推計人口・将来展望人口（p14の図）については、数値からも読み取れるものと考えております。
7	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P.11の4（2）第3段落2～3行目 意見：生産年齢人口の増減、割合の増減が、年少人口・老年人口より変化が少ないのは事実ですが、比較対象の変化が激しいのであって、生産年齢人口の変化が決して少ないわけではございません。最後の部分は削除し、事実のみにとどめてははいかがでしょうか。 原案：～減少しており、他の年齢2区分と比較すると変化は少ない状況にあります。 変更案：～減少しています。	【文章修正等】 ご提案のとおり修正いたします。(修正箇所p11)
8	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P.12の（3）第1段落2～3行目 意見：世帯数が減少に転じていること、減少している市町村が8市町村中6市町村となっていることから、増加している2町村を記載してはいかがでしょうか。 原案：～構成市町村別に見ると、弘前市、黒石市、平川市、板柳町、大鰐町、西目屋村において、平成27年に比べ減少しています。 変更案：～構成市町村別に見ると、藤崎町、田舎館村において、平成27年に比べ増加しています。	【反映困難】 世帯数について、圏域全体で減少し、市町村単位でも減少している、という文脈が理解しやすいと考えております。

番号	応募方法	募集要件	意見等	回答
9	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P.12の(3)第2段落2行目 意見1:第2次ビジョン(令和3年3月31日変更)版では、「平成2年では3.38人」となっており、今回の素案では「平成2年では3.36人」となっていたため、どちらが正しい数字なのか、ご教示ください。	【その他】 平成2年の1世帯あたり世帯人員については、 圏域人口329,629人÷圏域世帯数98,195=3.356…≒3.36人 であり、第3次ビジョン(素案)が正しいものとなっております。
10	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P.12の(3)第2段落2行目 意見2:本案中には昭和35年のデータがないこと、昭和35～55年にかけて世帯人員は大幅に減少したことから、極端な数字となっております。このため、以下のようにしてはいかがでしょうか。 原案:～昭和35年に5.21人だったものが、～ 変更案:～昭和55年に3.66人だったものが、～	【文章修正等】 減少傾向が分かりやすいように、次のとおり修正いたします。 修正前:昭和35年に5.21人だったものが、平成2年では3.36人、 令和2年では2.55人と～ 修正後:昭和55年に3.66人だったものが、平成12年では3.08人、 令和2年では2.55人と～
11	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P.12の(3)第2段落3～4行目 意見:3行目では「核家族化」、4行目では「1～2人世帯」としており、家族の類型に統一性がないこと、単独世帯の増加が顕著なことから、以下のようにしてはいかがでしょうか。(ただし、高齢者世帯は本文中にデータがないため、一文削除でもよい。) 原案:～近年の傾向として、高齢者の1～2人世帯の増加が大きな要因となっていると考えられます。 変更案:～近年の傾向として、高齢者の単独世帯の増加が大きな要因となっていると考えられます。	【反映困難】 「高齢者の1～2人世帯」については、高齢者の単独世帯や高齢者夫婦のみの核家族世帯といった、高齢者1～2人による世帯を意図しております。
12	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P.14の(4)の表、P15の(4)の図 意見:注釈の「各市町村人口ビジョン」は、「各市町村の人口ビジョン」に修正をお願いします。	【文章修正等】 ご提案のとおり修正いたします。(修正箇所p13, 14, 30, 31)
13	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P.15の6(1)の「図 就業人口構成」 意見:おそらく、不動産業の色が「図 総生産の経済活動別構成」と異なるので修正をお願いします。	【文章修正等】 ご指摘のとおり修正いたします。(修正箇所p15)
14	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P.15の6(1)の図 意見:サービス業は約3割と構成比が高いですが、その中で医療・福祉(就業人口では「保健衛生・社会事業」に区分)は経済活動でも、就業人口でも1割を超える割合となっているため、独立した項目に区分できないでしょうか。	【文章修正等】 ご提案のとおり修正するとともに、「サービス業」を「その他」に修正いたします。(修正箇所p15)

番号	応募方法	募集要件	意見等	回答
15	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P. 16 の第 2 段落 2 行目 意見：「猿の被害は深刻化している」とあるものの、下表では鎮静化しているように見え、平成 20 年代前期までの 1 千万円をおける被害額から大きく減少しており、深刻化している状況が判然としません。深刻化している具体的な状況の記載をお願いします。（できないなら、表現を現状に併せて修正をご検討ください。）	【文章修正等】 年度によって被害額の増減はありますが、農業に与える被害は変わらず深刻であることから、次のとおり修正いたします。 修正前：猿の被害は深刻化している状況にあり、～ 修正後：猿の被害は深刻な状況にあり、～
16	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P. 17 の「■ 観光」第 3 段落 意見：1～2 行目「～しており、」までの状況と、「～本圏域の～ツーリズムを推進する～」の、市やが市民が行うことが混在しています。このため、「～変化しており」で一度、句点で文章を区切ってはいかがでしょうか。	【文章修正等】 観光に対する国民的志向の変化を受けた、今後の観光施策の課題を述べている段落であることから、次のとおり修正いたします。 修正前：変化しており、本圏域の～ 修正後：変化していることから、本圏域においても、～
17	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P. 17 の「■ 観光」第 5 段落 2 行目 意見：地域連携 DMO に参画されているとのことで、観光庁の HP を確認したところ、一般社団法人 ClanPEONY の観光地域づくり候補法人とのことでした。登録に不足している要件はどのようなものかご教示ください。 参考：観光地域づくり候補法人リスト https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001430231.pdf	【その他】 以下の 2 項目について不足している部分があり、現在正式登録を目指して調整を図っております。 ①観光地域づくり法人を中心として観光地域づくりを行うことについての多様な関係者の合意形成 ②各種データ等の継続的な収集・分析、データに基づく明確なコンセプトに基づいた戦略（ブランディング）の策定、KPI の設定・PDCA サイクルの確立
18	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P. 18 の（2）第 3 段落 3 行目 意見：第 3 段落は一文で構成され長いため、3 行目で一度、句点で文章を区切ってはいかがでしょうか。	【文章修正等】 「第二次救急医療体制の再構築が図られた」ものの「圏域全体での一層の連携」が必要であることから、次のとおり修正いたします。 修正前：圏域全体での一層の連携を図る必要があるほか、民間医療機関における～ 修正後：圏域全体での一層の連携を図る必要があります。また、民間医療機関における～
19	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P. 18 の（3）「■ 児童福祉」第 1 段落 1, 2 行目 意見：2 行目に「喫緊の課題」とあるため、1 行目の「近年、」が意味のない語句になっています。いずれかを削除していただけないでしょうか。	【文章修正等】 下記 20 番のとおりに修正いたします。

番号	応募方法	募集要件	意見等	回答
20	E メール	弘前圏域内に住所を有する人 等	P.18 の（3）「■ 児童福祉」第1段落2～3行目 意見：第2段落目に、「子どもを心身共に健全に育成していくためには、～子どもがたくましく豊に育つ環境を確保していかなければなりません。」とあり、第1段落1行目の「～環境づくりが喫緊の課題」となっていることを述べているため、2～3行目が抽象的で意味のない文章になってしまっています。第1, 2段落で同じ形容詞・副詞が重複しないよう、再構成をお願いできないでしょうか。	【文章修正等】 ご意見を踏まえて次のとおり修正いたします。 修正前：近年、子どもを巡るさまざまな問題が深刻化するなか、社会全体で子どもと子育て家庭を支える環境づくりが喫緊の課題となっています。また、子どもの自主性や社会性を育み、心身共にたくましい、健やかな成長を図ることが重要となっています。 子どもを心身共に健全に育成していくためには、遊びの場の整備や遊び活動の充実、非行防止のための指導・相談体制の充実などを図り、家庭、学校、地域、企業、行政等が連携・協力し、子どもがたくましく豊かに育つ環境を確保していかなければなりません。 修正後：近年、子どもを巡るさまざまな問題が深刻化するなか、子どもの自主性や社会性を育み、心身共に健全に育成していくためには、遊びの場の整備や遊び活動の充実、非行防止のための指導・相談体制の充実などを図り、家庭、学校、地域、企業、行政等が連携・協力し、社会全体で子どもと子育て家庭を支える環境づくりが重要となっています。
21	E メール	弘前圏域内に住所を有する人 等	P.19 の（3）「■ 児童福祉」第1段落3行目 意見：1家庭当たりの出産人数を3人以上にするならともかく、現在の非婚化状況では「仕事と子育ての両立支援」としての「ワーク・ライフ・バランス」では不十分です。出産のための恋愛・つきあいのための時間が必要であり、独身者の「ワーク・ライフ・バランス」が必要ではないでしょうか。	【その他】 ワーク・ライフ・バランスの実現については、既婚者や独身者を問わず重要な課題ではありますが、本項では児童福祉における課題の一つとして取り上げているものです。
22	E メール	弘前圏域内に住所を有する人 等	P.19 の（3）「■ 高齢者福祉」第4段落1行目 意見：「少子高齢化の進行」のうちの「少子化」については、「地域の支え合いの低下」には繋がらない（子どもは原則的に支えられる側であり、支える側として考えるべきではないため）ため、単に「高齢化の進行」としていただけないでしょうか。	【反映困難】 少子化も含めて「少子高齢化の進行」は「地域コミュニティの希薄化」につながり、「地域コミュニティの希薄化」が「地域の支え合いの低下」につながるものと考えております。
23	E メール	弘前圏域内に住所を有する人 等	P.19 の（3）「■ 高齢者福祉」第4段落1行目 意見：P.12（3）でもあったように、核家族化に加え、「単独世帯化」も含めるようにお願いします。	【反映困難】 「核家族化など」と記載しており、単独世帯化についても含まれております。

番号	応募方法	募集要件	意見等	回答
24	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P.19の(3)「 ■ 高齢者福祉 」第4段落1行目、P.20の(4)「 ■ 義務教育 」第2段落1行目 意見：「地域コミュニティの希薄化」「地域の連帯感の希薄化」と、似たような表現となっていますが、両方とも異なる使い方で意味があるという理解でよろしいでしょうか。	【その他】 文脈などを考慮し、より意図が伝わる表現としてそれぞれ使用しております。
25	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P.20の(5)「 ■ 文化財 」、P21の「 ■ 芸術・文化 」 意見：「6 生活機能」としての「文化」として「文化財」の現状、必要性を述べる部分となりますが、「生活機能」としての意図が判然としないように思います。次の「芸術・文化」でも各種団体の活動状況の集計もない状態です。せめて、現在の芸術・文化の活動・振興状況を明らかにし、弘前圏の地域が自立して行くに当たって芸術・文化も人間が生きていくに当たって重要だということを説明することはできないでしょうか。	【文章修正等】 次のとおり、日々の生活における芸術・文化の重要性について述べる文章を追加いたします。 修正前：本圏域では、～ 修正後：芸術・文化は、人々の活力や創造力の源泉となり、生き生きとした暮らしに不可欠なものです。本圏域では、～ なお、芸術・文化に関して圏域における統計データはありませんが、「弘前市文化芸術振興計画」において、弘前市内の文化施設を利用する文化芸術団体を対象としたアンケート調査結果をとりまとめております。
26	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P.23の第1段落2行目 意見：「空き家及び空き地の利活用や予防」とあるものの、人口及び世帯数が減少している状態のため、「空き家の取り壊し・解体の促進」を含めていただけないでしょうか。	【反映困難】 圏域では「弘前圏域空き家・空き地バンク」を運営し、空き家・空き地の有効活用に取り組んでおり、空き家の除却については、各市町村において補助金制度を設けるなどして取り組んでおります。 いただいたご意見は圏域市町村で共有し、参考とさせていただきます。

番号	応募方法	募集要件	意見等	回答
27	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P.23 の○の第3段落1～3行目 意見：弘前市市民生活センターを利用することは、被害の未然防止等に役立っていますが、「が」で繋いでしまうと、「早期解決を図っているが（十分ではないため）、今後も、～取り組みを継続することになってしまいます。このため、以下のようにしてはいかがでしょうか。 原案：本圏域では、地域住民の安全・安心な消費生活を確保するため、弘前市市民生活センターを圏域の消費生活相談窓口として活用し、広域的な情報の収集と共有により消費者被害の未然防止や早期解決を図っていますが、～ 変更案：本圏域では、地域住民の安全・安心な消費生活を確保し、消費者被害の未然防止や早期解決を図るため、弘前市市民生活センターを圏域の消費生活相談窓口として活用し、広域的な情報の収集と共有を行っており、～	【文章修正等】 ご意見を踏まえて次のとおり修正いたします。 修正前：早期解決を図っていますが、今後も、～育成に向けて、取組を継続する必要があります。 修正後：早期解決を図っており、引き続き～育成に向けて取り組んでいく必要があります。
28	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P.23 の「■ 自然環境」第2段落 意見：環境変化とその影響への危惧とが前後しているため、以下のようにしてはいかがでしょうか。なお、危惧している主語は誰でしょうか。漠然と不安をあおるのは不適切なため、環境問題が生じている事実で十分かと愚考します。 原案：一方、環境問題の影響は、年間の平均気温が確実に上昇していることや、酸性雪が確認されているなど、本圏域においても危惧されています。 変更案：一方、年間の平均気温の上昇や、酸性雪など、本圏域においても地球規模の環境問題の影響が危惧されています。	【文章修正等】 ご意見を踏まえて次のとおり修正いたします。 修正前：一方、環境問題の影響は、年間の平均気温が確実に上昇していることや、酸性雪が確認されているなど、本圏域においても危惧されています。 修正後：一方、年間の平均気温の上昇や酸性雪の確認など、本圏域においても地球規模の環境問題の影響が危惧されています。
29	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P.23 の（7）第2段落 意見：「～示している」の主語は誰でしょうか。以下の表現で十分かと思しますので、ご検討ください。（「水害や～示しています。」がなくても、十分に意味は通ると思います） 原案：その環境は、圏域住民に潤いを与える反面、水害や土砂災害などによる被害を受ける可能性が常にある地域であることを示しています。 変更案：その環境は、圏域住民に潤いを与える反面、水害や土砂災害などの被害も発生させています。	【反映困難】 被災の可能性はありますが、常襲地帯ではないため、当初の表現のままいたします。 また、「示している」の主語は「その環境」となります。

番号	応募方法	募集要件	意見等	回答
30	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P.23 の(7) 第5段落1行目 意見 : 信憑性がないため、「各機関」の例示(「気象庁などの各機関」といった表現)をお願いします。	【文章修正等】 次のとおり修正いたします。 修正前: 各機関の研究によると、～ 修正後: 国等の各機関の研究によると、～
31	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P.24 の第3段落3行目 意見 : リスクは多い・少ないではなく、高い・低いではないでしょうか。	【文章修正等】 被害の「規模」を示した「リスク」であるため、次のとおり修正いたします。 修正前: 災害によるリスクの少ない～ 修正後: 災害によるリスクの小さい～
32	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P.24 の(1)「■ 鉄道」第2段落 意見 : 5行にわたって、状況、予定、要望が混在していること、利便性・快適性の語句が2回記載されていることから、以下のように整理してはいかがでしょうか。 原案 : JR 奥羽本線・五能線は、青森市～本圏域～秋田方面を結ぶ重要な輸送幹線であるため、長年にわたり機能強化や利便性・快適性の向上を要望しており、令和2年12月から五能線の全ての列車と奥羽本線の一部列車に新型車両が導入されているほか、令和5年から奥羽本線(青森駅から弘前駅)において交通系 IC カード Suica の利用が可能となる動きがありますが、利便性・快適性のさらなる向上が求められております。 変更案 : JR 奥羽本線・五能線については、令和2年12月から五能線の全ての列車と奥羽本線の一部列車に新型車両が導入されているほか、令和5年から奥羽本線(青森駅から弘前駅)において交通系 IC カード Suica の利用が可能となる動きがあります。 一方で、青森市～本圏域～秋田方面を結ぶ重要な輸送幹線であるため、機能強化や利便性・快適性のさらなる向上が求められております。	【文章修正等】 これまで要望活動を進めてきた経緯と近年の動きとの間で文章を区切ることとし、次の通り修正いたします。 修正前: ～を要望しており、令和2年12月から五能線の全ての列車と奥羽本線の一部列車に新型車両が導入されているほか、令和5年から奥羽本線(青森駅から弘前駅)において交通系 IC カード Suica の利用が可能となる動きがありますが、利便性・快適性のさらなる向上が求められております。 修正後: ～を要望しております。その結果、令和2年12月から五能線の全ての列車と奥羽本線の一部列車に新型車両が導入されているほか、令和5年以降に奥羽本線(青森駅～弘前駅)において交通系 IC カード Suica の利用が可能となる動きがありますが、さらなる利便性・快適性の向上が求められております。

番号	応募方法	募集要件	意見等	回答
33	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P.24の(1)「■ 鉄道」第3段落3～5行目 意見：「二次交通(「拠点となる空港や鉄道の駅から観光地までの交通(JTB総研)」。この場合は、新幹線に接続する奥羽本線・五能線に限定されている)の充実」「ダイヤの乱れ」が相反するとして「おりますが」と否定的に記載しているものの、両方とも課題のため、以下のようにしてはいかがでしょうか。 原案：～期待されていることから二次交通の充実が強く求められておりますが、JR奥羽本線・五能線は、強風や豪雪によるダイヤの乱れが多く、新幹線へのアクセス等の利便性・快適性向上や安定輸送の確保を求める声があります。 変更案：～期待されていることから二次交通の充実が強く求められており、一方でJR奥羽本線・五能線は、強風や豪雪によるダイヤの乱れが多いことから、新幹線へのアクセス等の利便性・快適性向上や安定輸送の確保を求める声があります。	【反映困難】 二次交通について、「充実が強く求められている」ものの「ダイヤの乱れが多い」という、相反する現状を述べることを意図しております。
34	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P.24の(1)「■ 鉄道」第4段落1行目 意見：「機能向上」とは、この場合、どのようなことを指すのでしょうか。ご教示ください。(雪害に影響を受けないことをいうのか、多少の遅延でも問題なく接続する時間の猶予のことか、雪害等からの復旧時間の短縮(迅速化)をいうのか、不透明であり、抽象的すぎる)	【その他】 「機能向上」とは、強風や豪雪によるダイヤの乱れが生じないための機能向上のことであり、線路設備や車両設備機能の向上などを意図しております。
35	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P.24の(1)「■ 鉄道」第4段落2行目 意見：「利用意識の醸成」とは、この場合、どのようなことを指すのでしょうか。ご教示ください。(受け入れる側の観光・ビジネス担当者が、雪害等が発生する可能生を見越した広報を行うことなのか、多少の遅延が発生することを前提に日程を決定することなのか、弘南鉄道で求められているような利用者増に向けた利用促進PRなのか、地域の誰に焦点を当てているのかも不明で、抽象的すぎる)	【その他】 「利用意識の醸成」とは、現状の利用状況のままでは鉄道事業者が機能向上等を図ることが難しいため、沿線市町村が連携して住民の鉄道利用を促すことを意図しております。
36	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P.24の(1)「■ バス」第3段落2行目 意見：経営が維持できなくなり、バス路線が廃止されてきており、交通弱者の生活交通の確保対策は、もともと非効率的です。矛盾していますので、「かつ効率的な」の削除を提案します。(せいぜい、「できるだけ費用のかからない方法とする」程度。)	【反映困難】 利用者が少なく運行欠損額が大きい、いわゆる運行効率の低いバス路線について、例えば乗合タクシーに転換するなど、バス事業者の運行経費を削減し、限りある運転士や車両を効率的に運用できるような公共交通網の再構築を目指しております。

番号	応募方法	募集要件	意見等	回答
37	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P.26の(2)「■ 婚活支援」第3段落2行目 意見：「スケールメリット」とは、「特定の職場や地域ではなく、弘前圏域の全住民を対象とする」ことでしょうか、「弘前圏域全体で婚活支援を展開する」ことでしょうか、「地域全体で支援する体制とする」ことでしょうか。「スケール（規模の）メリット」のスケールが漠然としているため、ご教示ください。	【その他】 「スケールメリット」とは「弘前圏域定住自立圏構成市町村全体で婚活支援に取り組むことの優位性」を意図しております。 弘前圏域全体の住民を婚活支援の対象とし、また、婚活イベントを弘前圏域各地で開催すること等により、弘前圏域の地域特性を生かしながら、圏域全体で婚活支援を促進する取組を行っております。 なお、広域連携開始以降の成婚21組のうち、約半数の10組が異なる市町村同士の成婚となるなど、広域化の成果が現れてきております。
38	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P.27の「■ 移住・定住の促進」 意見：圏域市町村の移住者への定住促進もご検討ください。	【その他】 令和2年度から年に2回、弘前圏域市町村への移住者を対象に、移住者交流会を開催しております。 これは、移住者同士の交流に加え、移住者と地元住民との交流が進むことで、地域でのつながりづくりのきっかけになるよう実施しているものとなります。 特に、コロナ禍において移住された方は外出の制限等から孤独感を感じる方が多いと考えられるため、今後も移住者の交流機会を提供することで移住者の不安を解消し、定住に繋がるよう支援してまいります。
39	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P.27の(1)第3段落4行目 意見：社会参加がしやすい環境整備も重要ですが、地域行事（成人のイニシエーションとしての祭りだけでなく、どぶさらい・見回りなどの社会環境の維持活動）の必要性や代替するときの費用の算出など、各町会・自治会に地域行事に参加すべき必然性を分からせる工夫を求め、そのための費用の徴収権限を与えるようにお願いします。（地域の社会環境へのただ乗りが防止できなければ、地域社会は維持できないため。）	【その他】 町会（町内会、自治会）は一定の区域に住所を有する者の地縁に基づいて組織され、住民自治の原則の下、それぞれがルールを定め活動しています。 こうした中、少子高齢化や生活環境の変化等を背景に町会行事への参加者の減少が課題の一つになっており、弘前市の場合では、このような課題の解決に向けて、住民のまちづくりに対する意識の高揚を図るための取組を行っているところです。 いただいたご意見は圏域市町村で共有させていただきます。
40	E メール	弘前圏域内に住所を有する人等	P.28の黒ボツ6つ目 意見：「汲々とせず」とある一方、P.30以降では、数値目標を立てるなどして大いにこだわっているため、「汲々とせず」は削除してはいかがでしょうか。（もともと、本ビジョンを含めた人口ビジョンが人口減少を抑制することを目的として作成しているはずです。）	【反映困難】 圏域の将来人口など数値目標については、国の「定住自立圏構想推進要綱」において、目標の設定及びビジョンへの掲載が定められているものです。本圏域では、人口減少を受け止めながらも、魅力あふれるまちづくりを目指していきたいと考えております。

番号	応募方法	募集要件	意見等	回答
41	E メール	弘前圏域内に 住所を有する 人 等	P. 29 の◆の第 1 段落 1 行目 意見 : 「人口定住」とはどのような意味でしょうか。	【その他】 人口の定住という意味で、国の「定住自立圏構想推進要綱」に基づく表現です。